

21世紀めざして

093.1
丁

市民と手をたずさえ

福祉・文化・産業の調和あるまちづくり



昭和29年、都留市は山梨県下4番目の市として誕生し、
★本年は市制発足25周年にあたります。変動の激しい25年
間でしたが、諸先輩と市民の努力と協力によって、市勢
は年々発展充実を遂げてきました。

これまでを基盤にして、昭和60年をめざす市の長期総
合計画もすでに策定いたしました。市民の皆さまと手を
たずさえ、福祉・文化・産業の調和あるまちづくりを進
め、輝やかな21世紀をめざしたいと願っています。

市勢のこれまでと現況を集約し、市の将来を見極める
てだてとして、ここに市勢要覧を発行しました。

市政に対するいっそうのご理解とご協力を、切にお願
い申し上げます。

都留市長 高部 通正

都留市 氏より寄贈
昭和五十四年 十月 二十日

わがふるさとの朝



定まった都市づくりの基本

昭和60年めざし基本計画は5本の柱で推進

1

快適で安全な
生活環境の創出



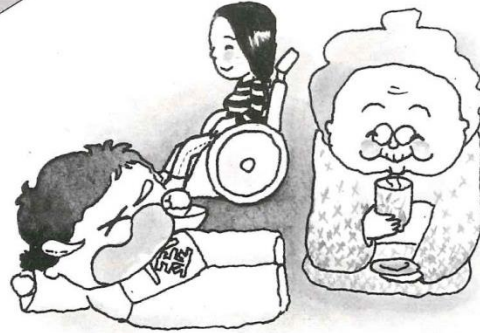
恵まれた自然条件や土地の有効利用を図り、快適な生活環境をつくり、秩序ある都市づくりをすすめます。

このため、道路網の整備、上水道・簡易水道施設の整備、公園や緑地の整備、公営住宅の建設、防災・公害の防止につとめます。

廃棄物処理については、広域行政により施設の整備をすすめます。

2

豊かな福祉と
健康づくりの推進



お互いに助け合いのある充実した心の福祉を推進し、また、健やかな暮らしを守るための都市づくりをすすめます。

このため、ボランティア活動の推進など、助け合いのある福祉をすすめます。生きがいのある老後を送れるよう施設の整備と、母子家庭や心障者福祉の推進、医療の充実、愛育会員や栄養推進員など、保健活動ボランティアを始め、組織団体による地域保健活動の育成を図ります。

また、医療体制の整備のため、市民病院の建設を促進します。

3

人間味と
創造力あふれる人づくり



近世から教育と文化のまちとして発展してきた伝統をふまえ、創造性と自主性を備えた情操豊かな市民が育つよう、一貫した生涯教育の充実を図り、文教の都市づくりをすすめます。

このため、幼児教育の充実、義務教育の施設整備と教育効果の充実、社会教育の推進と、文化活動の促進を図ります。

また、文教都市にふさわしく、市立文科大学の、いっそうの充実を図ります。

基本構想

基本構想は、昭和60年における望ましい都市づくりの方向と、その実現に向けて市行政が果たすべき役割を定めたものです。

その大綱は、豊かな明日をめざして共同生活意識を高め、自然と調和した明るく健康でうおいのある、住み良い都市づくりをめざすことを、基本理念としています。

都市づくりの理想像としては、都留市の立地条件と伝

統に立って、○文化のかおり高い文教都市○明るく健康でうおいのある都市づくり○均衡のとれた活力ある産業の発展を期することにしていきます。都市づくりをより力強く効果あるものにするためには、市民の総力をあげて取組むことが大切です。このため、市民参加の促進と連帯感醸成が大きな課題となっています。

4

創意と活力のある産業の発展



豊かな市民生活を支える産業の振興を図ります。農業近代化のための基盤整備、商業の振興を図り、働きやすい活発な産業活動ができる都市づくりをめざします。

このため、農業基盤整備事業として、農道、水路、農業用施設の整備と経営の合理化を促進、商店街の機能強化、販売力、顧客吸引力の増大など、魅力ある商店街の形成と優良な企業誘致・地場産業の振興を図ります。

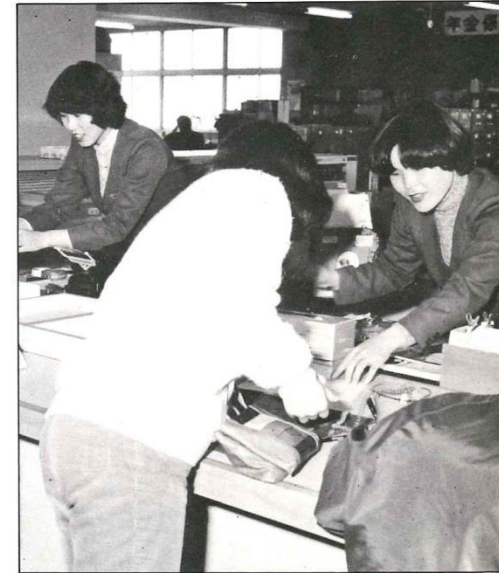
5

参加と合意に基づく市政の推進



市民と一体となった行政を推進し、市民総参加市政の実現のため、行財政の計画的で総合的な運用を図り、市民とともに歩む市政をめざします。

このため、「広報つる」を中心に広報活動の充実を図り、市政モニターや市政懇談会、各関係団体との話し合いなど、広報・広聴体制を確立します。



にこやかに、市民課窓口



事務合理化のため電子計算機を導入

市民の総力を結集

伝統ある教育・文化・産業をさらに充実発展させるため

市の横顔

都留市は、東経 138 度 54 分 5 秒、北緯 35 度 32 分 9 秒、山梨県の東南部に位し、総面積 161.97km²。首都東京(新宿駅)より約 86.9km、中央線及び富士急行社線にて約 1 時間 40 分、中央自動車道で 1 時間、国道 20 号線利用で約 2 時間 30 分ほどの距離です。県都甲府市より約 50 km 余、中央自動車道で勝沼経由で 1 時間、その他のルートで 1 時間 20 分の距離です。

都留市は、首都圏整備法により、首都圏に包含されており、その衛星都市としていっそうの発展が期

待されています。市の総面積の 90 % は山岳丘陵であって、山林原野で占められており、耕地や住宅地等の平坦地は 10 % に過ぎません。標高も西部が高く、北東部に向い低く、桂川に沿って富士山火山噴出の溶岩流が走っており、富士山麓の一部と見ることもできます。桂川は、市の西部(西桂町)より、北部(大月市)に流れ、市内の延長 15km、これに沿って国道 139 号線、中央自動車道、並びに富士急行社線が走っています。

写真

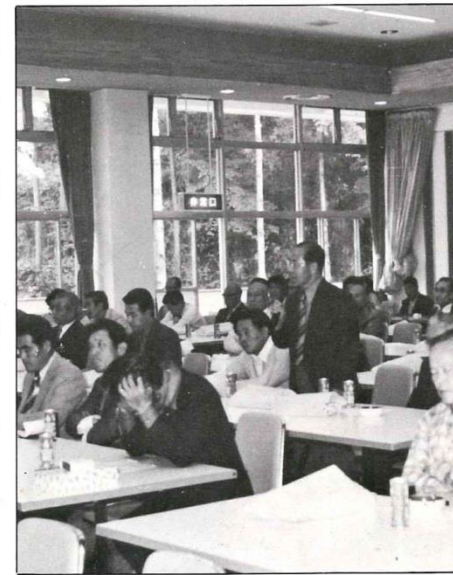
写真



市政懇談会



市政を語る市長と青年の会



市政懇談会

市の沿革

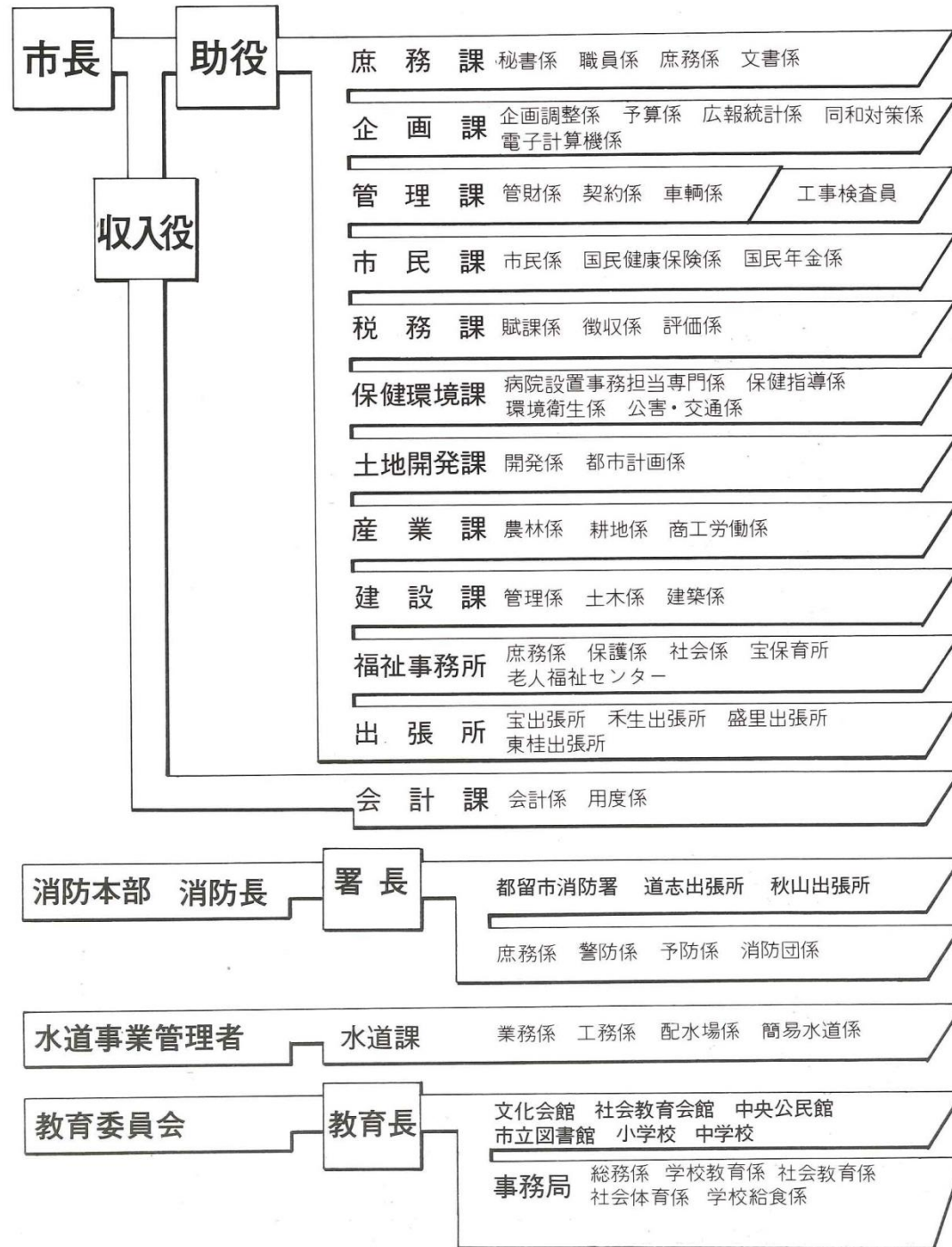
都留市は、昔から特産甲州織の生産並びに集産地として、郡内(南、北都留郡)における経済、教育、文化、交通の要衝にあり、中心地として繁栄しました。絹織物工業が養蚕とともに家内工業として発展し、現在も当地方特産の八端織物は全国的に販路をもっています。政治の面においても、谷村は「一郡の治所なり」とあるとおり、昔から郡内地方を領するものは、この地に居館または城を設けて郡内地方を統治したので、政治の中心でもありました。谷村は明治29年3月7日町制を施行し、谷村町となりました。昭和17年4月1日、谷村町に開地村、三吉村の2ヵ村が合併し、29年には、町村合併促進法に基づいて谷村町、宝村、禾生村、盛里村及び東桂村の1町4ヵ村が合併し、都留市として市制を施行しました。合併直後から精密機械等の工場誘致を積極的にすすめ、産業を盛んにし、さらに学園都市を目指し、35年には都留文科大学を開設しました。また、首都圏域にも含まれるとともに44年には中央自動車道大月、河口湖間が開通しています。45年には山梨県東部広域市町村圏に属し、行政の広域化を進めています。諸施策の成果などによって、人口も若干ながら増加の傾向をしめし、次第に繁栄の一途をたどっています。

年 表

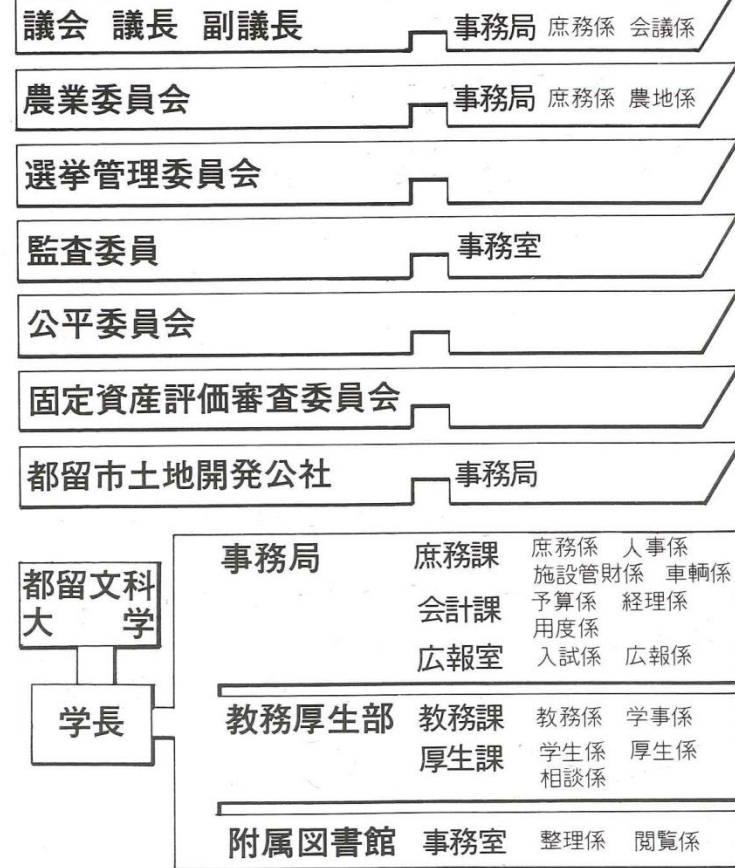
29. 4. 29	都留市制施行(1町4ヵ村合併) 世帯数 5,761世帯 人口 31,098人	32. 8. 30	甲府地方検察庁都留支部、甲府地方方法務局都留支局合同庁舎完成	43. 5. 23	市庁舎完成
29. 8. 6	都留市市章制定	32. 9. 19	赤字の解消と健全財政確立のため、自主財政再建計画をたて、自治省に提出	45. 7. 15	山梨県東部広域市町村圏協議会設置
30. 3. 20	都留市民歌制定	33. 11. 1	有料新笹子トンネル開通(国道20号線)	48. 6. 19	南都留合同庁舎完成
30. 6. 1	都留電報電話局新庁舎開局	34. 4. 14	甲府地方(家庭)裁判所都留支部庁舎完成	49. 4. 15	都留市制20周年記念式典挙行
31. 4. 28	第一回都留市制祭 多彩な祝賀行事を行う			49. 8. 1	都留市土地開発公社発足
				53. 3. 24	山梨県安全運転学校都留分校完成

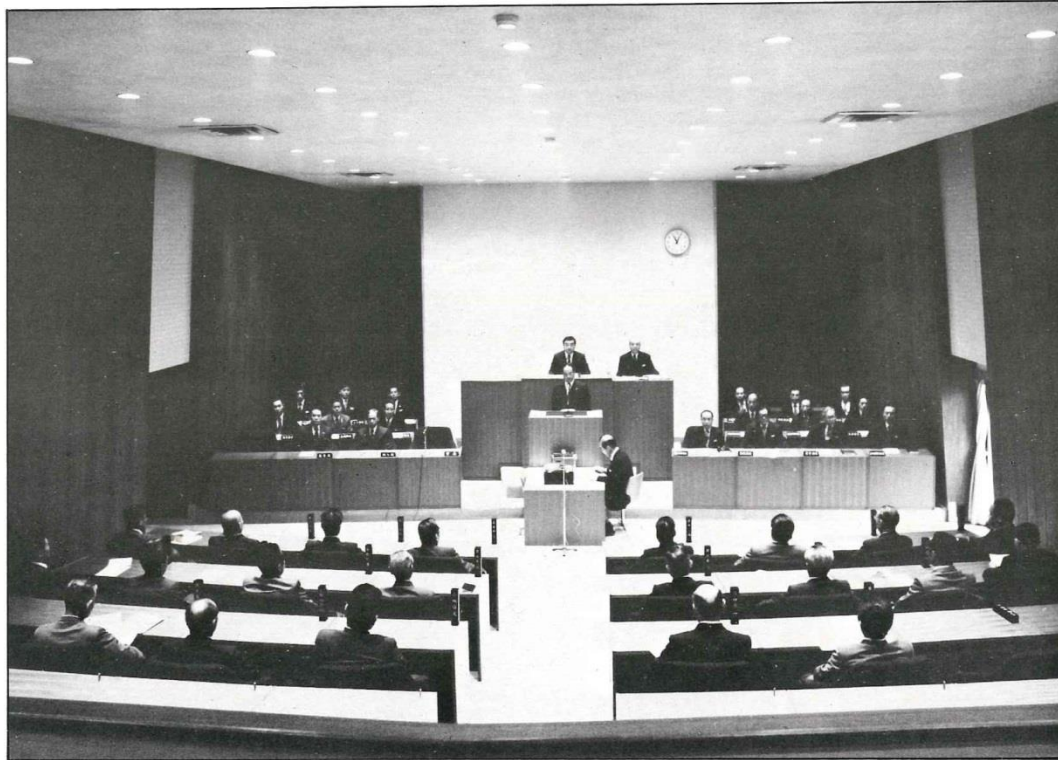
信頼と協力を支えに

連帯感あふれる市民総参加のまちづくり



毎月2回、市長と幹部職員とで開く庁議





市議会議場



市役所庁舎



議長

都倉昭二



副議長

岩田宗一

市議会議員氏名

議席番号	氏名	所属常任委員会
1	森 正 久	総 務
2	平 井 武	建 設
3	志 村 力	社 会
4	前 田 進	総 務
5	原 田 幹 全	建 設
6	田 辺 宋 貳	建 設
7	藤 江 五 郎	経 済
8	谷 内 久 治	経 済
9	赤 沢 識	建 設
10	武 井 忠 治	建 設
11	小 俣 賢 明	総 務
12	園 田 寅 次	経 済
13	曾 根 直 隆	社 会
14	高 部 利 幸	総 務
15	志 村 弘	社 会
16	牛 田 勝 男	建 設
17	都 倉 昭 二	経 済
18	菊 地 義 雄	総 務
19	岩 田 宗 一	経 済
20	小 林 信 夫	経 済
21	天 野 謙 訪 松	社 会
22	国 田 高 忠	社 会

(昭和54年4月30日就任)